

[月 刊]

2010. FEB

平成22年2月10日

岩手よ もっと
元気になれ!

(財)いわて産業振興センター広報誌

産業情報 いわて

Vol.

95

CLOSEUP
岩手力!

昭栄建設株式会社

事業利用企業紹介

報
告

工場管理実践塾／商品化プロデュース事業
チャレンジショップ事業表彰

募
集

第14回機械要素技術展
いわて希望ファンド・いわて農商工連携ファンド

お
知
ら
せ

起業家大学発表会／下請かけこみ寺

CLOSEUP

岩手力!

事業利用企業紹介

昭栄建設株式会社

本業にこだわらず
新規分野に参入。
「ブレない」を信条に建設業が
ワサビ栽培で食産業に挑戦する。

「いい施工をするためには自ら体験してみなければ...」。自然な発想だったかもしれない。ワサビ栽培を体験することで栽培装置をより適確に施工する。その先には、できたワサビを売るといふ大きな世界が広がっていた。



岩手山の伏流水で育てられるワサビ

本業からブレない新規事業参入

建設業の新規事業への参入がさまざまな形で試みられている。

昭栄建設株式会社のワサビ栽培。一見、かなり飛んだように見えるが、「本業からブレていない」と社長の横澤昭博氏は言う。

同社のワサビ栽培は、沢とか湧水地のワサビ田で行うのではなく、プラスチック製の大きな枠に砂利、土を入れ、ここにワサビ苗を植えて機械的に水を供給し栽培する、いわゆる装置栽培。その栽培装置を施工するのに本業の建設工事技術を生かしているというわけだ。

同社はもともと圃場整備などで農業分野に長年関わってきた。「全部合わせたら県土の3分の1ぐらいの面積になるかもしれない」。そうした中で、ワサビ栽培装置の施工工事に巡り会った。工事を数件手掛けるうちノウハウが蓄積され、また「ワサビの食品としての魅力」に社長自ら魅せられ、新規事業として取り組むことを決めた。

「住宅建築でも注文住宅の場合は施主さんと施工者が設計段階からいろいろ話し合ってつくり上げていく。この装置も同じようにうちの業態で事業化できるのではないかな。それにしても、まず自分で栽培してみなくてはいい施工ができない」

植え付けてから1年半を過ぎると大きな芋に成長する

平成17年、装置メーカー（岐阜県）と代理店契約を結び、自社施工の装置で試験栽培。18年に事業化に向けては、設備貸与制度を利用し装置を施工、本格的な栽培を始めた。自然流水のワサビ田では通常2年ぐらいい収穫期を迎えるが、この装置栽培だと1年半ぐらいいから収穫、出荷できる。今、同社のワサビ田では大きく育ったワサビが市場デビューを待っている。

ワサビは捨てる場所が無い

装置栽培の利点はなんといっても管理しやすいことだが、場所がどこでもいいというわけではない。もっとも大事なのは水。きれいであることはもちろん、一定の酸素量と鉄分が少ないこと、そして安定的に湧水量が確保されることが条件だ。その適地を見つけては試掘し、成分検査、湧水量調査を行って施工場所と設





収穫作業。葉、茎、芋、根と切り分けられる



本体の芋。
寿司店、レストラン
などに出荷される



親芋に子芋がたくさん付く。
白く見えるのが根で、ここがいちばん辛い部分

備規模を決めることになる。現在、同社の栽培装置は岩手山南麓にあり、一帯には同じ装置を使って町営、民間2カ所でワサビ栽培が行われている。

装置栽培によるワサビ栽培はこうだ。

半年育てた苗を植え付ける。苗1本1本それぞれに1本のホースから水をかけ流す仕組みで、自然流水よりはるかに少ない水量で賄う。ところが水の成分と土の栄養分のおかげで生育が早く、1年半もすると芋と呼ぶ根が20センチ以上に育つ。そして、この芋に10~15個の子供芋が出てくるのをもぎ取って、再び植え付ける。このくり返し。従って、基本的に苗は一度買えばいいということになる。

収穫したワサビは、葉、茎、芋、根(芋の先にヒゲのように出る白い細い部分)と切り分け、まずは生鮮野菜として出荷する。次いで、葉、茎は味噌漬、醤油漬などに加工する。葉も根(ここが一番辛味が強い)も、2月頃に咲く白い花も食べられる。ワサビはほとんど捨てるところの無い歩留まりのよい作物なのだ。



冬に咲くワサビの花。これも食用になる



試作中のワサビの茎の味噌漬と醤油漬。
ご飯によし酒の肴によし

いなり寿司、ジェラート…

「次から次、どんどん育ってきますから、今度は売ることを考えなければならない。生き物が相手だけに今までには無かった緊張感があります」

しかし、ひと口に売ると言っても、すでに県内には半世紀の歴史を持つ大先輩「宮守ワサビ」があり、全国には静岡、長野という一大産地が君臨、新規参入者には厳しい市場だ。

そこで、本業の取引企業のトップや知友関係、いわて産業振興センターの紹介など、あらゆる人脈、ネットワークを使って独自に販路を開拓。一方、商品開発と販売を担う別会社を設立して販売態勢を整えた。ここでは自社商品のほか、同じ栽培装置を施工している雫石町内2カ所、安比、岩泉でとれた分も一括、販売する。

商品開発では、ワサビの茎の味噌漬、醤油漬といったスタンダードなもののほか、ワサビいなり寿司、ワサビの醤油漬入りおにぎり、ワサビジェラート、ワサビ入り荒挽きソーセージといった新感覚のものも試食販売を重ねてほぼ味を確立し、本格販売のゴーサイン待ちだ。

「パフェにとんかつが載る時代。何が出てくるかわかりません。可能性は大きいです」

企業概要

- 設立 1954年
- 代表取締役社長 横澤 昭博
- 資本金 1億円
- 事業内容 土木・建築一式工事・不動産取引業・建築設計
- 所在地 盛岡市上堂四丁目11番8号
電話 019-647-2222
- ビジネスパートナー 株式会社春の隣
代表取締役 高山 幸夫
電話 019-645-6331

URL <http://www.shoei-kk.co.jp>

今月の表紙／ワサビに賭ける人。商品開発、販売のビジネスパートナー株式会社春の隣(はるのとなり) 高山幸夫社長(左)と横澤昭博社長。「ワサビに関わって5年。一度も風邪をひいていません」(横澤)、「ワサビのおかげかどうか、健康診断でγ-GTPが去年の半分になりました」(高山)。盛岡市上堂の本社前で。

社長プロフィール／横澤 昭博

1963年生まれ。「ワサビは日本では飛鳥時代から薬用植物としてあって…。ワサビの辛味成分、アリルからし油には揮発性があり…。抗酸化作用…。食欲増進…。解毒を促進するなどの効果もあり…。」ワサビの話になると口が滑らかになる。若くして社長就任。そして迎えた建設業冬の時代。新分野への挑戦意欲は強いが「本業からブレないこと」にこだわる。「そうでないと展開のスピードが出ないから」。今年、アクセルを踏み込む年になるか。



「工場管理実践塾」成果報告会・概要紹介

当センターでは、本県のものづくり基盤を支える優れた産業人材を育成するため、製造業に特化した「いわてものづくりアカデミー」を開催しています。

その中でも「工場管理実践塾」は、集合研修の座学にとどまらず、参加企業の工場そのものを会場としてカイゼン活動を行う実践的コースであり、「ものづくりアカデミー」の目玉講座となっております。

約8ヶ月間にわたる長期研修では、5Sの定着方法、ムダ取りなど実際に現場カイゼンを行うための手法を体得する訪問研修や、講師によるフォローアップを行うことにより、各社の抱える課題の解決を図り、生産性が高く、競争力のある工場へのレベルアップを目指しています。

活動内容

今年度は平成21年5月26日から、(財)日本生産性本部の主席経営コンサルタント・武川俊幸氏と高田晴弘氏を講師に招き、3社7名の受講者により下記のとおり研修を実施しました。

●集合研修 (5/26～27)

主な内容 メーカーにおける収益構造変革の着眼点、現場改善の基本手法など、座学で実施

●訪問研修 第1回(6/24～26) 第2回(7/28～30) 第3回(9/28～30) 第4回(10/19～21)

主な内容 参加企業における具体的改善活動実施(5S改善、基礎データ収集方法、段取改善、在庫改善、工程の流れ改善、仕掛品削減、レイアウト改善、計画の見える化など、参加企業の課題に即したテーマを設定)

●フォローアップ 中間フォローアップ(8/27) 最終フォローアップ(11/18)

主な内容 各社作成したプロジェクト企画書に基づき、改善活動を継続して行うため、インターネット電話を用いた遠隔指導により講師が各社毎にフォローアップを実施



訪問研修



フォローアップ(講師による遠隔指導)

成果報告概要

成果報告会は平成21年12月17日に行われ、各社の受講者から、プレゼンテーション方式で成果報告がありました。報告会には受講者のほか各社の経営幹部など約30人が参加し、その報告内容に真剣に聴き入っていました。活発な質疑応答もあり、充実した成果報告会となりました。



成果報告会

各社の主な成果としては、

岩手東亜DKK(株)

イオン電極の作業効率のアップと改善

⇒イオン電極本体のASSY化(受注生産化)により、1本あたり工数平均65分が32.7分(32.3分・49.7%削減)、組立リードタイム12日が4日(8日・66.7%削減)

(株)エヅリコエンジニアリング

板金工程の作業手順書作成の生産性向上

⇒手順をビデオ撮影し、そのビデオを活用して作業手順書を作成することにより、手順書作成時間16時間が8時間(8時間・50%削減)

(株)小山田工業所

防火水槽製作における前工程(製缶)の工数削減

⇒設計段階からR形状を考慮したピット部品にしてガス切断を無くする等により、主要タイプ:40時間53分が39時間44分(1時間9分削減)、別タイプ:52時間35分が51時間14分10秒(1時間20分50秒削減)

などが挙げられ、各社とも現場カイゼンが図られました。

今後、各社一丸となって今回の取り組みを定着・水平展開し、現場カイゼンを図りながら企業として更にレベルアップされることを期待しております。

平成22年度「第14回機械要素技術展」出展企業募集

平成22年6月23日(水)～25日(金)の3日間、「ビッグサイト(東京都)」で開催される、機械要素と機械材料・加工技術などの主要企業が一堂に集結する、「第14回機械要素技術展」への出展企業を募集いたします。

この展示会は日本最大級の集客力を誇り、製造業の設計技術者、研究開発者、生産技術者、購買・資材担当者など多数の来場者があり、平成21年度は3日間で延べ75,266人の来場者を数え、会場のいたるところで名刺交換、見積依頼、具体的商談が行われていました。

また全体で約1,600社の出展があり、出展者同士のいわゆるB to Bでの商談も期待できます。
新規取引先開拓の絶好の機会です。是非出展をご検討ください。

【募集概要】

開催時期：平成22年6月23日(水)～25日(金)

開催場所：東京ビッグサイト(東京国際展示場)

募集ブース数：10ブース

※沿岸広域(大船渡、釜石、宮古)のコーナー設置と、このコーナーに出展する企業への支援を検討しているところです。詳しくは別途お問い合わせください。

出展負担金：20万円程度/1ブース

出展対象業種：

[加工製品・技術]

切削、鋳造、鍛造、ロストワックス、ダイカスト、プレス、圧空成形、射出成形

[プラスチック加工関連製品・技術]

[金属加工関連製品・技術]

[その他関連製品・技術]

洗浄剤、潤滑油、接着剤 など

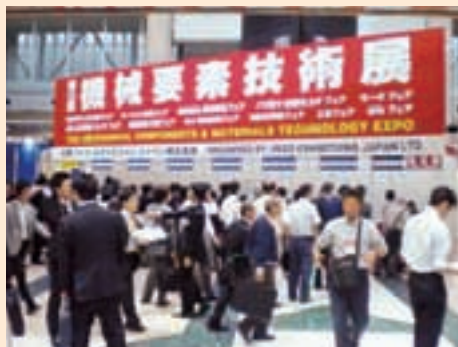
[材料および製品]

エンブラ・スーパーエンブラ、汎用プラスチック、金属、非鉄金属、セラミックス、複合材料、ゴム・エラストマー・シリコン樹脂 など

[その他]

試験機器、計測機器、モータ及び周辺技術、油空圧機器、表面処理、バリ取り技術・機器 など

申し込み・問い合わせ先 育成支援グループ 担当/村上 TEL019-631-3822



会場風景



平成21年度岩手県内企業出展風景

いわて希望ファンド 地域活性化支援事業

公募

3/1月～

県内中小企業等の革新的・個性的な取組みにより地域経済の活性化を図るため、創業、経営革新・中心市街地活性化に向けた取組みなどについて助成金の交付と専門家の派遣等のソフト支援によって総合的に支援します。

〈起業・新事業活動支援事業〉

事業
メニュー

〈中心市街地活性化支援事業〉

創業・起業や経営の革新に資する中小企業等の以下の取組みを支援

～市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発又は事業化、販路開拓、人材養成等～

【対象者】・創業する者

- ・中小企業者(法人又は個人事業者)
- ・特定非営利活動法人(NPO)、農事組合法人等(地域資源活用枠のみ)

①地域資源活用枠

「地域資源」(農林水産物、鉱工業品又はその生産技術、文化財や温泉等の観光資源など)を活用する事業

【助成率】1/2

(大船渡、釜石、宮古、久慈及び二戸振興局管内の者が同地域で取組む事業は2/3)

【助成限度額】200万円

【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

②起業・経営革新枠

創業者(創業・起業から3年以内)が取り組む事業又は経営革新計画の承認を受けた事業

【助成率】1/2 【助成限度額】500万円

【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

中心市街地や商店街の活性化に向けての革新的な以下の取組みを支援

～市場調査・動向調査、新商品・新役務の開発又は企業化、販売促進・販売力強化、業種構成再編・遊休資産活用～

【対象者】・中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項各号に掲げる者

- ・小売・サービス業を営む県内に住所のある中小企業者(法人又は個人事業者)
- ・商工会、商工会議所、商店街振興組合
- ・知事が適当と認める特定非営利活動法人(NPO法人)

【助成率】9/10

(店舗賃借料については、「店舗賃借料/月×月数(助成対象期間×1/3)の算式によって算出された額の9/10」)

【助成限度額】200万円

【助成期間】最長3年以内(原則単年度)

支援機関による支援事業

中小企業者が実施する起業・経営革新等を支援する支援機関の取組みを支援

平成21年度「いわて起業家大学」 ビジネスプラン発表会の開催について

今 年度いわて起業家大学が5年ぶりに復活し、現在70名余の受講生が、熱心に研鑽に励んでいます。その受講生によるビジネスプラン発表会を開催します。

いずれも、それぞれの心のなかの“思い”を福島正伸先生の指導と参加者全員の協力でビジネスプランに具現化したものです。

過去に受講された皆様、関係された皆様、今年都合等で受講できなかった皆様等の参加をお待ちしています。是非、御来場くださり、発表者に対する暖かい支援を御願いします。

日 時 平成22年3月6日(土)

- ①発表会 午後2時00分から午後5時00分まで
- ②交流会 午後5時15分から午後7時00分まで
(交流会において修了証書授与式を行います)

場 所 ホテルメトロポリタン盛岡本館4階(盛岡市盛岡駅前通1-44)

- ①発表会 岩手の間(予定) ②交流会 姫神の間(予定)

ビジネスプラン発表者

今後の講義の中で決定します。

講 師 (司会兼コメンテーター)

株式会社アントレプレナーセンター
代表取締役社長 福島正伸氏

参加料 無料(ただし、交流会参加費4,000円予定)

問い合わせ先 育成支援グループ 担当/石村
TEL 019-631-3822 FAX 019-631-3830

工連携ファンド 公募します!!

3/29^日まで

いわて農商工連携ファンド 地域活性化支援事業

本県の地域経済の重要な担い手である農林水産業と中小企業者との連携（農商工等連携）を強化し、相乗効果を発揮していくことで地域経済の活性化を図るため、中小企業者と農林漁業者の連携体が行う創業や新たな事業展開等への支援を行います。

起業・新事業活動支援事業

創業者又は経営の革新を行う中小企業者と農林漁業者の連携体を支援

対象者

- 県内の中小企業者と農林漁業者の連携体
⇒ 農林漁業者とは、農業、林業、漁業を行うもの及びこれらの組織する団体（農協、森林組合、漁協、連合会も可）
- 中小企業者以外で、県内のNPO法人等と農林漁業者の連携体

注）申請は、中小企業者と農林漁業者の連名で行い、どちらか一方を代表者と定め、センターとの連絡・補助金の受領等を行う

助成対象経費

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発又は事業化、販路開拓、人材養成等

助成率

1/2以内（県北・沿岸地区は2/3以内）

助成限度額

500万円

助成期間

最長3年以内（原則単年度）

支援機関による支援事業

農商工連携による創業・起業又は経営の革新を支援する事業を行う支援機関（支援の実績を有する者に限る）を支援

農商工連携の事例

エゴマ調味料の事例

中小企業者（調味料メーカー）

大豆・小麦アレルギーが発生しない新たなエゴマ利用調味料の試作や岩手県産の食材と組み合わせたレシピ開発等を進め、販路開拓を図る。

農林漁業者（農業者）

エゴマには、アレルギー治療や動脈硬化などに効果があり、健康食品として注目を集めている。農業や化学肥料を使わない生産を進め、研修会や産地の情報発信を行う。



新商品開発！



それぞれが
工夫を凝らした
取組み！

農商工連携の基本的要件

【1.有機的連携】 中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、それぞれの経営資源を有効に活用すること

- 「有機的連携」とは、通常の事業範囲を超えて両者が連携することを指します。
- 「経営資源を有効に活用」とは、両者の有する設備、技術、個人の有する知識及び技能その他ビジネスノウハウ、知的財産等が、本事業を実施するために具体的かつ有効に用いられていることを指します。

【2.新商品の開発等】 事業により、新商品若しくは新役務の開発、生産又は需要の開拓が実現すること

- 「新商品若しくは新役務（サービス）」とは、事業実施主体にとって、これまでに開発、生産したことのない新たな商品又は役務であることが必要である。

「結いの市」に感謝状

～チャレンジショップ事業への協力～

1月6日にイオン盛岡南ショッピングセンター内の「いわて活菜横丁・結いの市」が、限られた販路しか持たない中小企業や生産者等が新たな取引市場開拓に挑戦することを支援する「チャレンジショップ」事業に、協力したことに対し、感謝状の贈呈が行われました。

設置者である「遠野ふるさと公社」から出席した菊池孝二常務理事（本田敏秋理事長代理）と、佐々木めぐみ店長に感謝状が贈られました。

この事業は20年度から行われており、約36の個人・団体が利用しています（1月末現在）。本年度事業は2月末まで行われます。

◆チャレンジショップ事業については、
<http://www.joho-iwate.or.jp/challengeshop>
をご覧ください。



表彰を受ける菊池孝二常務理事、佐々木めぐみ店長（写真右はいわて産業振興センター専務理事・長段常紀）

商品化プロデュース事業 相談会開催

1月14日午後、岩手県工業技術センター大ホールにて、「商品化プロデュース事業」を開催しました。

これは、県内中小企業者・起業者が、開発中あるいは販路拡大を目指している新商品等について、消費者が求める商品の情報が豊富である流通業界のバイヤーに評価してもらうものです。

当日は43組が商品を持参し、(株)岩手県産(矢巾町)の吉田哲雄営業部長ほか4人のバイヤーが商品を見たり試食して販売促進につながるよう評価及びアドバイスをを行いました。

あわせてデザイン、起業、知的財産に関する相談コーナーを設け、岩手県工業技術センター及び当センターの職員が細かな相談にも応じました。

特にデザインに関しては、相談者が列を作るほど盛況でした。

また、参加者同士が互いの商品を試食し合うなど交流の場になり、新たな商品のヒントを得た方もいたようです。

第2回は2月17日に開催し、その後の改良状況などについてヒアリングし、新たなアドバイスを行う予定です。

総合支援グループ 担当/中村 TEL019-631-3826



解決サポート 下請かけこみ寺

取引上のトラブルなど随時ご相談を受付けています。

弁護士無料相談
実施中!

かけこみ寺・移動相談所(2・3月の開催予定)

【宮古会場】宮古地方振興局	2月24日(水) 10:30~13:00
【釜石会場】財釜石・大槌地域産業育成センター	3月9日(火) 13:00~15:00
【大船渡会場】大船渡商工会議所	3月10日(水) 10:00~12:00
【二戸会場】二戸観光物産センターなにやーと	3月17日(水) 13:00~15:00
【久慈会場】久慈商工会議所	3月18日(木) 10:00~12:00

下請かけこみ寺相談、弁護士無料相談のお問い合わせ先

TEL 019-631-3822 育成支援グループ 担当/伊藤・村上 E-mail: joho@joho-iwate.or.jp



ものづくりアカデミーを 振り返って

育成支援グループ 主査
阿部 恵一

今月号で紹介させていただきました「工場管理実践塾」を始めとして、当センターでは、県内の、主に製造業の皆様を対象として「いわてものづくりアカデミー」を開催しています。私は、この「ものアカ」を担当して2年目になりますが、おかげさまでこの2年間で400名を超える皆様に受講していただきました。ありがとうございました。

担当していますと、講座にご派遣いただくにあたって皆様が様々な工夫をなさっていることに気付かされます。「ものアカ」の割引制度としては、①賛助会員割引(約20%)、②複数回受講割引(20%、賛助会員は賛助会員割引額から重複して割引)の2つがありますが、これに加え、企業様ならではの工夫として、③雇用調整助成金の活用(お問い合わせ先:最寄りのハローワーク)、④キャリア形成促進助成金の活用(お問い合わせ先:(独)雇用・能力開発機構岩手センター)の2つの方法があるようです。センターといたしましては、③、④の各制度に必要な委託契約や実施証明等にも全面的にご協力させていただいております。これらの制度の活用もご検討されてはいかがでしょうか。活用により、この「ものアカ」がより有益な人材育成の機会となれば大変嬉しく思います。

来月には来年度の新しいプログラムをお知らせできる予定です。引き続き「ものアカ」をよろしく願いいたします。